

平成 26 年度人間文化創成科学研究科（博士前期課程）8 月入試
ライフサイエンス専攻 遺伝カウンセリングコース 口述試験課題

下記の課題についてパワーポイント 6 枚程度を用いて口頭発表をしてください。

口述試験会場に持ち込めるものは、発表に使うパワーポイントファイルを入れた CD-R、USB メモリーのみです。発表時間は 8 分程度とし、試験時間は発表・質疑応答をあわせて 15 分程度です。発表には、動画や音声は使用できません。また、必ずバックアップファイルを持参してください。

発表内容の要旨を A4 用紙 1 枚に 800 字以内でまとめ、「外国語試験・遺伝カウンセリングに関する基礎科目試験・小論文試験」の前に試験監督者に提出してください。要旨には、志望コース名、受験番号、氏名、口述試験で使用する情報媒体（CD-R、USB）を明記してください。

口述試験課題

和男は 30 歳男性。56 歳母は健在。58 歳の父は 9 年前に会話での呂律が回らなくなること
を初期症状として、次第に歩行などの運動機能が低下してきて、やがては寝たきりとなり、
認知機能の低下も来す神経難病 Q（架空の疾患）であると診断され、最近遺伝子診断
を受けて、遺伝子の変異が明らかとなり、診断が確定した。

父に同伴して訪院した母と受診した父本人が主治医から説明された情報では、この疾患
は常染色体遺伝性疾患であり、子には半分の確率で変異のある遺伝子が受け継がれ、和男
も 50 歳前後に父同様の症状が発症する可能性があるとのことである。

和男には既に 5 年間の付き合いがあり、結婚し、子どもをもうけることを考えている良
子というパートナーがおり、お互いの親元を離れて同棲生活を送っている。

今回の父の診断結果を受けて、和男は自分自身の将来と良子との間にもうけたい子ども
への遺伝の可能性を心配して、まずは、自分自身の遺伝子診断を受けたいと希望して、父
が遺伝子診断を受けた神経内科の医師の勤務する病院にある遺伝子診療部を受診した。

この来談者（クライアント）である和男さんに対して、遺伝カウンセラーとしてどのよ
うな情報を提供し、どのような声かけをあなたなら行うかを、プレゼンテーションして下
さい。